21世紀の
地球社会に向けて
あなたは何を
志しますか？

第III期生募集要項

1994
1995
1996

地球市民アカデミア

国際協力・国際教育リーダー「地球市民」塾

■共催
東和大学国際教育研究所
NGO活動推進センター（JANIC）
東京YMCA国際奉仕センター
■協力
（学）アジア学院
開発教育協議会
■会場
東京YMCA国際奉仕センター

募集要項

自分自身が持つ課題を見つめ直し深めていくことは、「これから」をどう生きていくか、
あなた自身の「生き方」を問い直していくことです。
ともに「地球市民」として生きていくことを学びましょう。

開催期間
1996年4月～1997年2月
（全20回・合宿3回を含みます）

募集対象
①将来国際協力、国際教育の分野で活動したいという意欲を持つ人。
②原則として全回参加できる人
③18歳以上の人

参加費用
65,000円
（費用には登録費、受講料、資料代などが含まれます。合宿費用は別途。）

定員
45名
（申し込みが定員を越える場合、選考させていただくことがあります。）

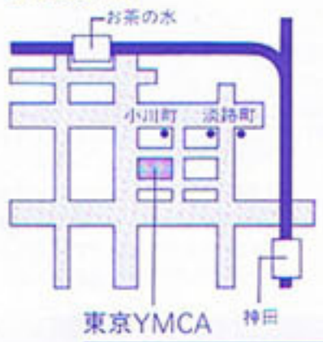
募集締切
3月13日消必着

申込方法
指定の申し込み用紙に記入し、所定の用紙に「私の考えるこれからの国際協力（または国際教育）」「地球市民とは？」「阪神・淡路大震災に学ぶこと」というテーマの中から1つを選んで作文を書き、下記にお送り下さい。費用については申込後別途ご案内致します。学生の場合は、分納もあります。

お申し込み・問い合わせ

「地球市民アカデミア」事務局
〒101 東京都千代田区神田美土代町7
東京YMCA国際奉仕センター内
TEL 03-3293-7011
FAX 03-3293-7014

会場案内図



共催団体紹介

「地球市民アカデミア」は、これら3団体の共催です。

東和大学国際教育研究所

東和大学国際教育研究所は、国際問題や地球的諸問題への洞察力と判断力を有する地球市民の養成に関する研究と実践を機軸にすえています。また、国際協力や国際教育の調査研究にも取り組んでいます。大学附置の研究所ではありますが、講座や研究会への参加、資料の閲覧、研究紀要への投稿等できるだけ市民に開かれた研究所を目指しています。

NGO活動推進センター（JANIC）

地球社会が直面する開発・環境・人権などの人類共通の課題に取り組む市民組織（NGO）の活動支援を目的に1987年に設立。主な活動は、NGO間のネットワーキングやNGO活動に関する情報の収集及び提供、広報・調査研究、人材育成などをはじめ、海外NGOとの情報交換及び協力関係の促進など。

東京YMCA国際奉仕センター

YMCAは「青少年の健全育成」「豊かな地球社会の形成」そして「平和な世界の実現」をめざしている青少年団体・社会教育団体です。国際奉仕センターでは、バングラデシュYMCAアメリカ・フロストバレーYMCA、中国・北京YMCAとの協力関係を通して、青少年の国際理解を高め、交流・協力活動を行うことを目指しています。

協力団体紹介

様々な団体の協力を得ながら、広いネットワークの中で
「地球市民アカデミア」は進められています。

アジア学院

アジア学院は、アジア・アフリカ諸国から来た研修生が、農村地域社会の人々の生活向上と安定のために献身しようと、食糧の生産の基本、農村生活改善、そしてよりよいコミュニティづくりを生活体験を通して学んでいく、農村指導者専門学校です。

開発教育協議会

開発教育協議会は、日本における開発教育の推進を目的として1982年に結成された門間の連合体組織です。各地で取り組まれている開発教育をネットワークし、必要な情報を伝達し、その試みや働きを側面から支援することを役割としています。機関誌やニュースレターの発行、情報センターの設置、全国研究集会、ワークショップ、地域ゼミナールなどの開催を行っています。

「地球市民アカデミア」はこうして生まれました！

東西対立の終焉、高まる地球環境への危機感、民族紛争の激化など、世界はめまぐるしく動いています。
国際協力への関心の高まりとともに、そうした分野での活動を志す人たちもますます増えてきました。
「地球市民アカデミア」はそのような人々への新しい学びの場です。

共働学習を通じた新しい学びの場を求めて

従来、講座というと座って講義を受けるというイメージがありました。しかし、実際に国際協力、国際教育を実践していくには、知識や情報をただ身にまとうだけでなく、それらをメッセージやアクションに変えていくことが必要です。そのためには、実体験や試行錯誤を通じて受講者同士が互いに学び合う場が必要となります。「地球市民アカデミア」は、そんな今までにない新しい学びの場となりたいのです。

21世紀の地球社会に求められる人間像を求めて

開発途上国への「援助」に対する様々な意見からも分かるように、異なった社会状況の中、厳しい条件の下に生きる人々と共に生きようとすることは、学問の枠におさまりきるものではありません。21世紀の地球社会に求められるのは、いわゆる開発途上と言われる国々に生きる人々を、援助や研究の対象として見るのではなく、同時代を共に生きる人間として理解し合い、共感できる力と感性を持った地球市民なのです。

地球市民アカデミアのリーダーたち

校長
高見　敏弘（アジア学院創設者理事・NGO活動推進センター理事長）
講師陣
池住　義憲（アジア保健研究所事務局長）
内海　愛子（明治学院大学教授）
大橋　正明（恵泉女学園大学）
勝原　晋（国学院大学教授）
久保田　順（立教大学教授）
小松　光一（お茶の水女子大学講師・アジア農民交流大学学長）
中村　尚司（龍谷大学教授）
西川　潤（早稲田大学教授）（交渉中）
企画・運営委員会
赤石　和則（東和大学国際教育研究所）
渡野　昌子（東和大学国際教育研究所）
上田　香子（東和大学国際教育研究所）
上條　直美（東京YMCA国際奉仕センター）
鶴　清忠（東京YMCA国際奉仕センター）
奈良　昭彦（東京YMCA国際奉仕センター）
山本　俊正（東京YMCA国際奉仕センター）
福澤　郁文（シャプラニール）
山西　優二（開発教育協議会）
湯本　浩之（NGO活動推進センター）
小幽　真樹（地球市民アカデミア第I期生）
佐藤　山根（地球市民アカデミア第II期生）
西島　博（地球市民アカデミア第II期生）

「地球市民アカデミア」のゴール

この講座が目指すものは、将来国際分野での活動を志す者が、現在の社会状況を正しく理解し、自分自身が社会のために何ができるかを考えることを通して、自分自身の価値観を問い直し、意識の変容を促していくことです。国際協力や国際教育に携わる人々の経験に学び、実際にNGOなどを訪問して、現実感ある国際協力・国際教育を学びたいと思います。あなた自身がなぜ国際協力、国際教育が必要であると考え、どう関わりたいのか、また何ができるのかを深く掘り下げることをめざします。さらに、これからの社会を創っていく上で大切な、他者との協力関係の築き方を共に学びます。

地球市民アカデミアの流れ

導入
オリエンテーション合宿
動機づけ

基礎理解
世界の見方・考え方
国際協力の理解
国際教育の理解

共働学習へ向けて
夏合宿（ワークショップ）
自分の問題意識の明確化

共働学習
グループ活動
共働・協力を通し
他者と共に具体的な解決への
方策を探る

まとめ
プレゼンテーション合宿
成果の検証

1年間のカリキュラム

3回の合宿を通じて受講生相互の考え方、価値観、学びを共有。
基礎理解では、広い視野から世界の諸課題を「見る眼」を養います。
そして「共働学習」を通して、あなた自身の課題、テーマをさらに深めていきます。

＊時間はいずれも午後6時30分～8時30分です。（合宿は別）

1 2-14
アジア学院合宿　共に生きるために
「国際協力とは？国際教育とは？」そう考える前に、アジア学院の「流れ」に身を任せてみませんか？土や緑や命に触れることによって「アジア」を発見することでしょう。2泊3日の合宿では、アジア学院に体験入学し、農作業等の体験を共有しながら、本アカデミアでのあなたの課題や方向性の模索とします。

2 4.19
世界の見方I　アジアの農村から世界が見える
「南アジアの農村」という具体的な事例から、貧困や開発問題だけでなく、環境、人権、平和など様々な事柄が見えてきます。ものごとを広い視野から見ることをここで学びます。

3 4.26
世界の見方II　地球市民として生きる
「地球市民として生きる」とは？個人としての生き方、そしてさらに世界システムへの関与を通しての生き方、それぞれの意味を考え、世界の構造的問題に個人、市民としてどう関わっていくのか、市民としての権利と責任とは何かを、欧米や日本、世界の先進の例を紹介しながら共に考えていきます。

4 5.10
世界の見方III　歴史をふまえたアジアの見方
アジアの各地を歩けば、日本の戦争の痕跡がいたるところに残っています。アジア太平洋戦争は過去の話ではなく、今日のアジアの中での日本のあり方の問題に大きく関係しています。ビジネスであれ、NGO活動であれ、最近はアジアへの関心を持つ人々が増え、アジアを訪する機会も多くなっています。そのときに忘れてはならないのが、アジア各地で起こした日本の戦争の歴史で[illegible]戦争と人権というテーマでは、世界の見方に[illegible]ます。

5 5.24
リフレクション
世界の見方I～IIIを通じて学んだ諸問題について、受講生同士のディスカッションを通じて「振り返り」、深めていきます。

6 6.7
国際協力I 問題論　開発とは何か
今日の国際協力に求められるものは何か。「開発」と「援助・協力」の歴史、理論的検証を踏まえながら、上記課題に迫ります。「開発とは何か」など異なる考え方が存在するテーマについて討論していきます。

7 6.21
国際協力II実践　具体的な事例を通して
国際協力が実際にどのようにけわれているかを、政府開発援助（ODA）やNGO活動の事例を通して学んでいきます。何人かの実践者を招んで討論する予定です。

8 7.4
国際教育I 概論
開発問題・環境問題などの地球的諸問題が顕在化するなかで、教育が果たすべき役割は何か。またその実践に向けて、いかなる変革と創造が教育に求められるのかについて共に考えます。

9 7.12
国際教育II実践　その具体的な取り組み
国際教育活動を、学校で、地域で、家庭で取り組んでいる方々を迎えて、その具体的な事例を共有しながら、さらなる進展に向けての方策を話し合います。

10 7.20-21
夏合宿
国際協力I・II、国際教育I・IIを終え、学んだことを振り返り、ワークショップを通じて、自分自身の課題、テーマを深めていきます。夏の間の自主的な活動へのヒントとなるフィールドワークについても学びます。

11 9.6
特別企画
公開シンポジウム

12 9.20
共働学習グループ決定
「グループ」という単位での学びを通して人と人とが協力することの意味を体験し、自分自身のテーマを明確にした上で、グループごとのテーマを決定、共働作業に入ります。各グループにはアドバイザーがつき、活動をサポートします。

13-16 9.26・10.3・10.24・11.7
共働学習①～④　グループでの学びを通して
グループごとに分かれて、具体的な作業の計画をたてます。NGOや地域訪問を通しての学び、勉強会など各グループ独自の活動が展開されます。

17 11.28
実践にむけて
アカデミアは、1年間（全20回）を終了した後の「あなた」の行動や考え方が本番です。アカデミア後の「あなた」について、受講生同士共有し、アカデミア卒業生を迎えて、アカデミア後の「自分」について話してもらいます。

18-19 12.5・1.16
共働学習⑤～⑥　グループでの学びを通して
共働学習も終盤に入り、プレゼンテーション合宿での発表に向けてのまとめの段階へと進みます。

20 2.1-2
プレゼンテーション合宿
明日から行動するために
今のあなたと10ヶ月後のあなた。何が変わっているのでしょうか。今までとは「違う」あなたが、きっとそこにいるでしょう。あなたにとっての国際協力、国際教育。その新たな課題や次なるステップが見つかるのかも知れません。最終回は1泊2日の合宿を行います。10ヶ月間にわたる学びやグループ活動の成果を発表し、それを明日からの行動へつなげたいと思います。